

山の学習支援事業プログラムの実施例

対象プログラム	No.10 森林入門！ No.14 森林×防災
学校名	高知市立三里小学校
学年	6 年生 25 名
実施場所	三里小学校 教室・中庭
目標	道徳で学習した「地域の誇りを守る」と関連して、森林率日本一の高知県の森林を守り、繋いでいくためにできることを考える。 社会科で学習した昔の暮らしを体験することにより理解を深める。
実施教科	総合学習の時間
関連教科	6 年生 道徳（地域の誇りを守る）社会（昔のくらし）
講師	一般社団法人 高知県山林協会（甫喜ヶ峰森林公園）
持ち物	学校：モニター、パソコン、水の入ったバケツ 講師：火起こし器（舞ぎり式、弓切り式、きりもみ式各 4 個）麻紐
実施項目	座学（森林入門）、火起こし体験
対象プログラム	No.10 森林入門！ No.14 森林×防災
所要時間	座学 15 分程度 火起こし体験 80 分程度
実施内容	<p>・座学（森林入門）</p> <p>教室でパワーポイントを使って学習した。最初に講師から児童に知っていることを問いかけた。その後、森林の働き、SDGs と森林の関係、日本の森林について、森林の整備、森林を守る活動等について学習した。</p> <p>・火起こし体験</p> <p>簡単に火起こし体験の方法やスケジュールを資料に基づき説明した。火起こし体験は 3 種類の道具を使って行った。それぞれの道具を 3 つのグループに分かれて 20 分ごとに体験した。交代するタイミングで 5 分の休憩をはさんだ。体験を終えて、講師から昔の人は火をつけるのに苦労したから火を大切にしていた。火起こしの方法を知っておくと災害時に役立つ。もし山で遭難したらスギやウツギ、アジサイなど幹に空洞のある樹種の枝を使うと火を起こせる可能性があること等を伝えた。</p>
児童の感想	<p>・楽しかった。 ・こんなにしんどいと思わなかった。</p> <p>・火の大切さがわかった。今は IH 等便利だが、昔の人はすごい。</p> <p>・資源を大切にしたい。 ・木の汎用性を知れて良かった。</p>

実施風景



紐を短くしたら早く回る、リズムが大事！等、児童たちはコツを掴み、なんとか火をつけようと熱心に取り組んでいた。

学習の終えて

担任の先生にお聞きしました：

新型コロナウイルスの影響で体験活動ができていなかったが、少し落ち着いてきたので学習の依頼をした。5年生の時にSDGsや昔の暮らしの学習をしており、今年は道徳の授業で「地域の誇りを守る」学習をしている。

児童の感想から楽しいだけでなく、さまざまな学びが見られ、学習の目的は達成できた。火おこし体験が児童にはすぐに森林とつながらないかもしれないが、体験で感じたしんどかったこと、火がついてうれしかったこと等が大きくなった時に高知のことを思い出すきっかけになってほしい。

補足

今後の展開：

振り返り学習でグループディスカッションにより高知県の森林を守り、繋いでいくためにどんなことが大事か考える。

今回の学習は「山の一〇日先生を派遣する事業」を活用して実施した。